

天文学とプラネタリウム

第146回

今月のお題

研究とクラウドファンディング

ネット経由で支援者から資金を募るクラウドファンディング。科学と社会の新しい関係性も見えてくるかもしれません。



www.tenpla.net

高梨直広 (東京大学)
平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

梅雨は充電期間中です……

5月中旬、ある記事が話題になりました。タイトルは『日本の天文学プロジェクトチームはハワイにたどり着けるのか〜1億円を出して旅費 80 万円が出せない謎』。ハワイの電波望遠鏡 JCMT を使って星形成の研究を行うグループが、観測のためにハワイに出張する旅費をクラウドファンディング(以下、CF)で募るという取り組みを紹介する記事でした。CF は徐々に日本でも広がりつつある手法で、自らのプロジェクトの意義を語り、実現に必要な資金を広く一般の支援者から資金を募るという仕組みです。

インタビュー記事では、研究者が CF に踏み切った理由が説明されていました。タイトルの 1 億円は国立天文台が望遠鏡運用のために負担している額、80 万円は観測のための旅費です。予算削減のため国立天文台の旅費支援が無く、大学から配分される研究費もわずかしかないとい

う窮状が語られていました。記事掲載時、CF での総支援額は 60 万円弱。しかし記事掲載後、支援額は一気に伸びました。Yahoo!Japan のトップに掲載されて多くの人の目に触れたことで、「天文学者に憧れていた」「もっと宇宙を知りたい」などのコメントを寄せる支援者が多く現れ、支援総額は目標額を何倍も超えていきました。

このプロジェクトの代表者は、CF を「究極のアウトリーチ(普及活動)」と表現しています。CF は、プロジェクトと社会との関係を浮き彫りにします。支援を受ける側はプロジェクトの面白さや意義を社会に語る必要があります、支援者に財布のひもを緩めてもらわなくてははいけません。支援を検討する側も、お金を払う価値があるかどうか真剣に考えます。公的な助成金の原資が税金であることを考えればその関係性は本当は変わらないのですが、個人が直接お金を出すという形を取ることで、天文学研究と個々人の関わりが明確に可視化



研究チームが使う予定のJCMT。すばる望遠鏡の少し下に位置しています。

されたといえるでしょう。

ふるさと納税と同様、これまでとは異なるお金の流れができることは様々な可能性を開くチャンスかもしれません。天プラでも、「一家に1枚宇宙図 2013」の製作で CF に挑戦しました。達成は簡単ではありませんでしたが、自らの活動を見つめなおすよい機会でもありました。CF とは少し違いますが、国立天文台も JAXA も直接の寄付を受け付けています。お金という形で好きなことを応援する取り組み、これからも注目です。

146

146